

## 市原市認知症対策連絡協議会 第1回例会議事録

日時 平成25年(2013年)7月25日 18時30分～20時45分

場所 市原市市民会館大会議室 参加者82名

会長挨拶のあと、医療、地域、サービス事業所、施設の4部会に分かれてグループ討議。そのあと全体会をおこなった。全体会では、はじめに各グループから討議内容の概略報告があり、つづいて全体討議をおこなった。概要は次の通り。

### 各部会での検討

#### 医療部会：

- 初期診断が大切だが、本人・家族・かかりつけ医の早期発見が出来ていない。
- 発見してもどこにつなげて良いか、どんな支援組織があるか分からない。
- 当事者は勿論、一般市民の啓蒙が必要で、その方法について今後検討をする必要がある。

#### 地域部会：

- 認知症に対する正しい知識、理解を深める。
- 早期発見システムの確立。
- 専門家の立場を越えた連携の形を作る。

#### 施設部会：

- 職員の認知症に対する理解が必要だが、各施設とも職員が勉強する時間が無く、どの様に勉強の機会を作るか、又そのような環境を作るか？
- 入居者の認知症のタイプの違いに対応できる職員の養成の必要がある。
- 施設により得意、不得意がある。この協議会を通じてそれらを活かしたネットワークを作り、今後の問題についても対応をすすめたい。

#### サービス事業所部会：

- 宅老所では、緊急時の泊まりも受けているが、夜間は看護師がいないため、医療ニーズの高い認知症の人を受け入れるのは難しい。
- 家族が病気の事を隠したり、理解していなかったりすることも多い。同じように対応スタッフの理解度も少ないのではないか。
- 認知症サポート医がいるのは聞いているが情報が分からない。
- どの病院を受診してもある程度認知症の事を理解してくれていれば、早期発見につながるのではないか、検査が必要と判断したときは適切な病院を紹介して欲しい
- 新薬を出してくれる病院が少ないように感じる

### 全体会での検討

○事務局から、コストを掛けずに勉強する手段として、製薬メーカー主催の講習会をお願いする方法があるが、どの様な話を聞きたいか？又、次回より、例会の前にミニ講演会を行いたい、希望する内容をお聞かせねがいたいとの提案にたいし、次のテーマが挙げられた。

- ・薬のそれぞれの症例への適応
- ・認知症の予防策、悪化しない為の方法、受診の見極め

- ・予防教室等で、簡単に行うテスト方法
- ・認知症発見後の対応
- ・世田谷の老人ホームでは、入居者に着けさせていたオムツを外したところ、初めはとまどいがあったが、自立出来る様になったと聞いた。市原の施設ではどうしているのか。

○以上の提案に対し、情報を集約して市民がアクセス出来るようなものを作りたいとの回答があった。これに関して、次のような説明もあった。

- ・「もの忘れのある方の懇談会」では、昨年、市から費用を頂いて、「もの忘れ対処法」パンフレットを作成した。懇談会のホームページがある。参照、活用願いたい。

○市の高齢者支援課では、生活習慣病の予防が認知症のリスクを下げるという認識に基づき、次のような事業を行っている。

- ・元気向上高齢者把握事業として、一人ひとりに調査票をおくり、ご自身の健康状態をチェックしてもらっている。
- ・元気向上プログラムとして、健康体操の推進等を行っている。
- ・また、認知症サポーター養成講座を行っている。市に連絡下されれば認知症ケア専門の人の派遣も出来る。
- ・今までは、予防に重点をおいてきたが、今後は、罹症した人の地域全体の包括的ケアに取り組みたい。

○以前、保健センターに健康検診の際、認知症のチェックをしてほしいと要望書を提出したが、却下された。再検討願いたいとの要望について、高齢者支援課からは、持ち帰って検討しますとの回答があった。

以上